

光治良忌 2025 年 ご参加へのお礼

皆さま、

去る3月8日、沼津で『光治良忌』を開催しました。種々のお力添えを有難うございました。

「沼津芹沢光治良文学愛好会」は、芹沢光治良先生のご命日にさきだって、毎年3月の第二土曜日に『光治良忌』を営んでいます。

今年は、朝から霰や小雪が舞う天候でしたが、地元の沼津をはじめ、東京や神奈川からも「光治良ファン」の皆さまがご来苑下さり、白いカーネーションを墓前に供えて下さいました。また、一部のかたが、我入道の芹沢光治良記念館に立ち寄られ、開催中の企画展「『人間の運命』の舞台を旅する」の展示解説を聴いて下さいました。学芸担当の剣持さんの、参加者の関心にあわせた「特番」内容のトークで、新しい興味を発見することができました。

今年は、光治良先生（1896年5月4日-1993年3月23日）の没後32年、またパリへの留学からちょうど100年になります。先生は、パリのソルボンヌ大学で統計社会学の視点から実証的に貨幣経済を研究するいっぽう、ヨーロッパの文化人とも広く交際し、音楽・演劇・絵画芸術にもふかく触れたようです。1927年、パリで肺結核を発症し高地療養を余儀なくされた先生は、孤独な療養生活のなかで深い思索（哲学的思索といえるかもしれません。）と経験を深められたように思われます。先生の作品のなかに見つかる「詩文」のリズムや人間描写の「語り」の抑揚は、ユマニスト芹沢光治良が、この滞欧中の経験を自らに培い、創りあげたものではないでしょうか。

パリ留学100年、沼津でも、今年、あらためて先生の「詩文」と「語り口」の美しさと楽しさを読みたいと思っております。

2025年3月16日

沼津芹沢光治良文学愛好会